

■ 国を大きく変えた大化改新後、土木事業に取り組み続けた、タブーも非難も恐れない自由奔放なチャレンジャー

- ・ 蘇我氏の力によって即位した舒明天皇が崩зると、その皇后（宝皇女）が即位し、皇極女帝となります。この女帝は雨乞いなどの祭祀を行う神秘的な天皇でした。
- ・ 彼女の即位によって、皇位継承の争いが回避できるはずでしたが、蘇我氏は亡き厩戸皇子の一族を襲い、翌年には中大兄皇子らが蘇我氏を滅亡させる乙巳の変を起こします。この直後、皇極女帝は責任を取るカタチで、当時まだタブーであった譲位を行いました。そして次に即位した孝徳天皇は難波へ遷都し、大化の改新を進め、中央集権化を図りましたが、やがて孤立して崩御。その結果、皇極は62歳で再び即位、つまり日本初の重祚を行ったのです。
- ・ これが斉明女帝です。そして改新によって整備された組織で、斉明女帝は強力な国づくりをめざして、土木事業に力を注ぎます。宮殿やさまざまな施設の建設をはじめ「狂心渠」と非難されるほどの大規模な運河も造ります。また東北に船団を派遣し、領土の拡大をめざします。
- ・ そして自ら陣頭指揮を取って、唐と新羅が滅ぼした百済再興のため海路で九州に赴きますが、決戦を目前に、68歳で息を引き取ったのでした。彼女の自由奔放に見える行動は、国家の安泰を願ってのことだったのかもしれませんが。



図出典：明日香村観光マップ

4 活用・整備のイメージ

4) ソフトによる活用のイメージ

(1) 遺跡ツーリズムの展開

- ◆ 発掘調査の現地説明会、見学会・体験会など、本物を見て、ふれる機会の提供



◆ 発掘現場の解説(現地説明会)
事例：飛鳥寺西方遺跡



◆ 発掘現場の解説(現地説明会)
事例：飛鳥寺西方遺跡



◆ 発掘現場の解説
事例：史跡斎宮跡



◆ バックヤード（土器の洗浄工程）
事例：斎宮歴史博物館



◆ バックヤード（出土品のストック）
事例：斎宮歴史博物館



◆ バックヤード（復元作業中の土器）
事例：斎宮歴史博物館

4 活用・整備のイメージ

(2)VR・ARによる飛鳥宮跡の体感

- VR・AR等のデジタル技術を活用して、往時の飛鳥宮の風景や人々の営みを体感
- その場所でしかできないゲームや、歴史の問題を解きながら周遊するアプリ等の開発
- アプリの改良・開発によるコンテンツの拡充



◆バーチャル飛鳥京：トップ画面



◆甘樫丘から見た飛鳥京(現在)



◆甘樫丘から見た飛鳥京(過去)



◆浄御原宮バーチャルガイド



◆「井戸」のCG画像



◆「正殿」のCG画像

出典：アプリ「バーチャル飛鳥京」 明日香村